

況して我國の如き、一度海を渡れば起元難き人種の差
が到る處に之を排斥してゐるのでは無いか。然らばから
、國家に對する不満の念を懐かせるのは、一つは禍心
を懐く輩の巧妙にして執拗なる宣傳誘惑に依るのであ
るか、一つは國家の制度其物の中に時代に適合せぬ部
分が存するに依るのである。此の點に關する調査研
究は一日も怠るべからぬ事柄であつて、其の結果漸
を追うて、改むべきは之を改め新たに施設すべきは大
に之を施設しなげればならぬ。即ち制度の改善は協調
の第六の要素である。

上述の諸點にして悉く解決せられたるとして、今一つ
の點が缺けたらば人類は決して幸福ではない。其
れは即ち絶間なき生産の發達である、其の質の向上と

量の増加とである。人類の歴史は一面から見れば實に
生産發達の過程である。マルクスは生産の窒息を説い
た。然しなみら、最近の露獨革命は却て生産の空乏に
依つて起つたものであることは、歐洲に於ける最も極
端なる社會主義者と雖も明かに之を認めてゐる。生産
の減少は言ふ迄もなく、生産の現状維持で人類を
て非常な不幸に陥らしむるものであることは、苟も人
類欲望の法則を知者否は能はざる所であらう。然
るに生産の現状維持にさへも絶間なき資本の増加と堪
能なる企業者の存在とを要する。勞働者のみの手に依
る産業の支配が、果して生産の發達を企圖し得るかは
少くとも今のところ大なる疑問である。所有の本能強
き者をして社會の爲に資本を作らしめよ。企業材幹